5-2 伸縮ワイヤーとバイクの固定接続

伸縮ワイヤーのバイクへの接続方法、接続箇所は各種バイクによる異なります。
乗車時は様々な状況によりライダーの動きが変わります、その場面を十分想定し、誤操作による誤作動が起こらない様に、伸縮ワイヤーの長さ、バイクへの取付付位置を決めてください。
(伸縮ワイヤー取付方法・位置 P17～18参照)
不適切な接続の場合、誤作動や作動しない恐れがありますのでご注意下さい。

警告 ! 1. 降車時に、接続を解除した伸縮ワイヤーカシラ等の高熱部分に触れた場合、変形や破損の恐れがあります。
2. 伸縮ワイヤーは運転の妨げになる場所への取付付はお避けください。
3. 伸縮ワイヤーをヒッチエアーに接続しないで走行した場合、車輪に絡み付く場所への取付付はお避けください。事故につながる恐れがあります。

注意 ! 4. 乗降時・走行時に伸縮ワイヤーをカバイクの各部位に接触した場合や、ヒッチエアー作動時にキーボールが抜けた際に伸縮ワイヤーの先に付いたキーボールなどがバイクの各部位に接触し、傷つく場合があります。
5. 伸縮ワイヤーの取付けが不完全の場合、伸縮ワイヤーが抜けて作動しません。
6. 外装にテープ、ゴム、めくれ、ひび等の異常を確認した場合は新しいものに取り替えください。そのまま使用すると、伸縮ワイヤーの切断やレーヤーが外れ抜け外れの原因となります。
7. 伸縮ワイヤーのお取り替えは、各自の責任において適切に行ってください。
また、事故の原因となりますので当社指定の伸縮ワイヤーを必ずご使用ください。

伸縮ワイヤー

伸縮ワイヤーのワイヤー部には、強度に優れたナイロン糸を使用し、ウレタン樹脂で表面をコーティングしています。

レーヤーウェー

レーヤーウェーは、伸縮ワイヤーの長さを調節し固定するパーツです。
乗車の際に、蝶ネジが強く締まっている事を確認してください。
長さ調節する場合は、ワイヤーをレーヤーウェーの溝に挟み込み、蝶ネジを強く締めてください。レーヤーウェーより出たワイヤーは根元に結び目を作り(固く結ぶ)、先端部を2cm以上残して、余った部分を切り、キャップをはめてください。
※結び目が無いワイヤーが抜けてエアバッグは膨らみません。

フロテクターチューブ

バイクとヒッチエアーへの損傷を防く保護カバー。
伸縮ワイヤーをフロテクターチューブの中に通し、バイクのフレームやパイプなど、巻き付け箇所の形状に応じて、適切な長さに切って使用下さい。

4-3 キーボックス

○キーボックス

この装置(写真1)は、通常約30kg～35kg程度で伸縮ワイヤーを引っ張る力により、キーボールが抜けて、キーボックス内に組み込まれている圧縮バネと針が連動し、カートリッジボンベの底部(封板)に穴を開けて炭酸ガスを送り、作動させます。
着用時、前方どの方向から引っ張られてもキーボールが抜ける仕組みとなっています。

警告 ! キーボックスを分解したり、部品をはずさないで下さい。

写真1

○赤ガード(スライドカバー)

赤ガード(スライドカバー)は、使用時は必ず上(フリー)の位置にして下さい(写真2)。
赤ガードは、キーボックス再生の際にキーボールが正しくセットされたかを確認するためのパーツです(写真3)。
キーボールが正しくセットされていないと赤ガードは下にスライドしません。

警告 ! 1. 赤ガードが下にスライドされたロックの状態(写真3)では、アクシデントの際に作動しない恐れがあります。また、キーボールがキーボックスから抜けない場合、バイクと繋がったままになり大きな事故につながる危険性があります。
使用時は必ず赤ガードを上(フリー)の位置にある事を確認して下さい(写真2)。

注意 ! 2. 赤ガードがロックの状態(写真3)でも、大きな力で引っ張られた場合、キーボックスが壊れ作動する事があります。また、直ぐに作動しなくても、赤ガードを戻した時などに、急に作動する場合があります。

写真2

写真3

4-6 ヒッチエアー構造

ヒッチエアーとバイクとの接続方法、接続箇所は各種バイクによる異なります。
乗車時は様々な状況によりライダーの動きが変わります、その場面を十分想定し、誤操作による誤作動が起こらない様に、伸縮ワイヤーの長さ、バイクへの取付付位置を決めてください。
(伸縮ワイヤー取付方法・位置 P17～18参照)
不適切な接続の場合、誤作動や作動しない恐れがありますのでご注意下さい。

警告 ! 1. 降車時に、接続を解除した伸縮ワイヤーカシラ等の高熱部分に触れた場合、変形や破損の恐れがあります。
2. 伸縮ワイヤーは運転の妨げになる場所への取付付はお避けください。
3. 伸縮ワイヤーをヒッチエアーに接続しないで走行した場合、車輪に絡み付く場所への取付付はお避けください。事故につながる恐れがあります。

注意 ! 4. 乗降時・走行時に伸縮ワイヤーをカバイクの各部位に接触した場合や、ヒッチエアーが作動時にキーボールが抜けた際に伸縮ワイヤーの先に付いたキーボールなどがバイクの各部位に接触し、傷つく場合があります。
5. 伸縮ワイヤーの取付けが不完全の場合、伸縮ワイヤーが抜けて作動しません。
6. 外装にテープ、ゴム、めくれ、ひび等の異常を確認した場合は新しいものに取り替えください。そのまま使用すると、伸縮ワイヤーの切断やレーヤーが外れ抜け外れの原因となります。
7. 伸縮ワイヤーのお取り替えは、各自の責任において適切に行ってください。
また、事故の原因となりますので当社指定の伸縮ワイヤーを必ずご使用ください。

伸縮ワイヤー

伸縮ワイヤーのワイヤー部には、強度に優れたナイロン糸を使用し、ウレタン樹脂で表面をコーティングしています。

レーヤーウェー

レーヤーウェーは、伸縮ワイヤーの長さを調節し固定するパーツです。
乗車の際に、蝶ネジが強く締まっている事を確認してください。
長さ調節する場合は、ワイヤーをレーヤーウェーの溝に挟み込み、蝶ネジを強く締めてください。レーヤーウェーより出たワイヤーは根元に結び目を作り(固く結ぶ)、先端部を2cm以上残して、余った部分を切り、キャップをはめてください。
※結び目が無いワイヤーが抜けてエアバッグは膨らみません。

フロテクターチューブ

バイクとヒッチエアーへの損傷を防く保護カバー。
伸縮ワイヤーをフロテクターチューブの中に通し、バイクのフレームやパイプなど、巻き付け箇所の形状に応じて、適切な長さに切って使用下さい。

伸縮ワイヤーの長さ調節方法

バイクにまたがりスタンディングし伸縮ワイヤーの**伸縮部分が伸びきった状態**にする

スクーター例 1

車上でスタンディングし
伸縮部分が伸びきった状態

スクーター例 2

地面からスタンディングし
伸縮部分が伸びきった状態

スクーター例 3

後部ステップからスタンディングし(中腰程度)伸縮部分が伸びきった状態

バイクの大きさ車種、ご自身の身長によって伸縮ワイヤーの取付位置、長さが異なります。
上記を参考にご自身にあった方法で調節して下さい。

《別売》収納用ワンタッチコネクター
バイクを降りた時にワイヤーを収納固定出来ます

ヒッチエアー構造図

※モデルによって異なる場合があります

ヒッチエアーとバイクとの接続

ヒッチエアーとバイクとはフタスナー、マジックテープ、ボタンなどでシャクシャクに取付けてあり、それらによって取り外し・取付けが可能です。
※シャクシャクにベンスト共共同様の構造になっています。

※モデルによって異なる場合があります